

子どもが自ら学びたくなるメディアの活用と総合的な学習の展開

鳥取県倉吉市立灘手小学校

やま わき たか ふみ

山脇隆史

【実践の内容】

本実践は、過去2年間において情報教育を基盤とした「総合的な学習」の取り組みを述べたものである。メディアを学習の中で使い、子ども達が学びたいとする授業の手だてと方法について述べている。

【論文内容の紹介】

「子どもたちが、自ら学びたくなる」こんな仕掛けが、メディアを使った学習にはある。子ども達がメディアと出会うとき、新しい道具に出会った喜びを持つ。何が出来るのか？何が始まるのか？期待で教室の中に笑顔が広がっていく。コンピュータ、インターネット、デジタルカメラなどメディアには、子どもを引きつける魅力があり、子ども達の学ぶ意欲を高める力がある。

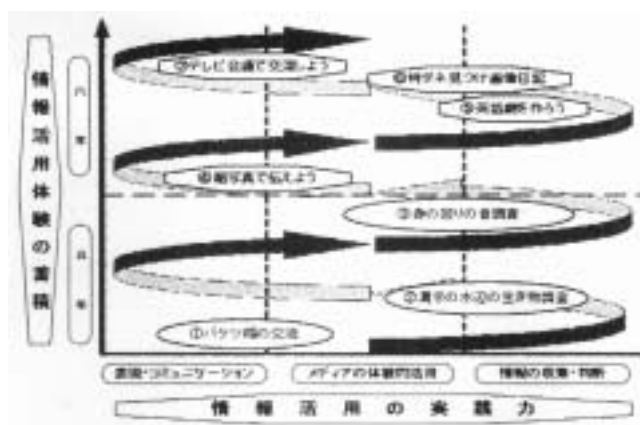
本実践では、総合的な学習において地域学習とメディアの活用を柱とした実践について

述べている。メディアを学習に活用する体験を通して、目的や条件に応じてメディアを主体的に活用出来る子どもを育てることをねらいとして取り組んだ。

学習でメディアを利用する場合、キーボード入力に代表されるコンピュータスキルは、基礎的な学習スキルとして訓練しなければならない。練習の時間を保証し、繰り返し練習を重ねる必要がある。また、学習の中でメディアを体験的に活用させていくためには、学習活動そのものに仕掛けを加えて課題を設定する必要がある。子ども達は、経験値としてメディアを活用するスキルを高めていく。子ども達が、身近にメディアを使って学習できる環境を用意することが重要である。

実践の結果から、メディアを学習に活用して行くには、図1のようにスパイラルに経験を重ね子ども達が自ら学び・自ら考えるきっかけを作る学習活動の場を設定することが重要であることが分かった。そして、学習をコーディネートする教師の役割がこれまで以上に重要であることも分かった。

総合的な学習の導入によって学びの姿が変革されようとしている中、今後も子ども達が主体的に学習に取り組みたくなる仕掛けづくりを念頭に置いて、学習活動へのメディアの活用を追求していきたい。



●図1／プロジェクト学習の取り組み